

# 代表質問 ● 産業建設常任委員会



長谷川 昭次

①この度、町長選の立候補にあたり、町政一新・新生ゆざわの構築について諸施策を講じられるとマニフェストでもうたっています。

特に我が常任委員会に関する施策をお聞きします。

中央では、ようやく景気回復の兆しがみえてきたようです。株価も一五千万円台と回復し、とにかく人の動向が顕著にできているとのこと。

湯沢町は自立、すなわち合併をしない道を選んだ途端に財政の硬直化が一気に加速し、現状は厳しい選択であったわけです。しかしながら、南魚

沼市の旧三町と比較した場合、おのずとご理解いただけると思います。わが町の基幹産業は、日本を代表する観光立町であります。

町長に対する期待は大きい。湯沢町民の幸せを第一に考え、地域経済の活性化は湯沢町の自立の条件である。

こうしたことから新町長はどのような諸施策を講じられるのか伺います。

## 町長答弁

財政の硬直化は否めない事実。身の丈に合った行財政運営に心がけていきたい。「観光立町宣言」を行った湯沢町ですので、まず意識改革、すなわち町民ともども変ったと内外にアピールしたい。また湯沢町には、沢山の「宝物」がある。町民の皆様方に積極的に町政参加を促したい。



スキー観光の活性化のために何をすべきか

②経済的にたくましい町の実現について伺います。

商工業ともに現状は厳しい。公共事業もめっきり減り、これでは「たくましい町」の実現は厳しいと考えるが町長の見解を伺う。

## 町長答弁

町民の視点に立って町政運営を行いたい。

③バブル期のスキー産業を経験した湯沢町の各スキー場は、その再来に期待を寄せているが、依然業

界は厳しい現状である。宿泊産業、特に民宿の激減はスキー産業の現状を著しく反映された現象である。

このような状況下で、主力産業の底上げと再構築の妙案があるのか伺います。

## 町長答弁

他のリゾート地と比較した場合、まだお客様は湯沢に来ていただいている。またスノースポーツの楽しみ方も、昔と違ってきている。国民のニーズが変わってきた。各種イベントも行ってはいるが、効果が見えてこないのが実状である。行政と民間と一体となって取り組む。また、共通券の発行は、湯沢町スキー場振興協議会と連携し、検討していきたい。

## 町長答弁

「いらっしやいませ」というおもてなしの心を、職員が手本となるよう取り組みたい。

自分は外から湯沢を見てきた。中にいる人は湯沢の「良さ」を理解していない。湯沢の町民は自信をもって内外にアピールしてもらいたい。

⑤最後に町民参加による「自立プラン」の活用について伺います。

## 町長答弁

町民の考えを聞いて、より多くの知恵を貸していただきたい。湯沢町をもっと知っていただくような施策を展開していきたい。